

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370501088		
法人名	有限会社 清和会		
事業所名	グループホーム城やしき 1F		
所在地	中村区城屋敷町1丁目3番地		
自己評価作成日	令和4年12月19日	評価結果市町村受理日	令和5年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2370501088-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響が出る前までは夏祭りやクリスマス会等の催しを開催していたが、外部からウイルスを持ちこまない様に今は中断しているが、地域と接点を持てるようにウイルス終息したら外部との交流をまた始めたいと考えている本年は家族を交えて12/25日にクリスマス会

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が続いていることもあり、家族との交流が困難な状況が続いているが、ホームでは、感染症の状況をみながら家族を招いた交流会の取り組みを再開しており、可能な範囲で家族と交流を行う取り組みが行われている。外出についても困難になっている状況が続いているが、ホーム内がゆったりとした広さが確保されていることもあり、利用者がホームでの毎日の生活の中で圧迫感を感じないような生活環境がつけられている。ホーム内の広いスペースを活かしながら、利用者がカラオケを楽しみながら毎日をお過ごしの方や、好みの場所で一人でお過ごしの方もあり、一人ひとりの意向に合わせた支援が行われている。また、身体状態の重い方も毎日の食事を美味しく食べてもらえるように、独自にムース食を作る取り組みが行われており、利用者の食事に関する支援につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は壁にかけているだけのものではなく、どうやったら実現出来るかを常勤者に再度考えさせ実行や実践できるように問いかけている	ホームの基本理念を職員の支援の基本に考えながら、ホーム内に理念の掲示が行われている。また、職員の心得として、「気づき、目くばり、心くばり」も支援の基本に掲げており、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議にて地域の行事に参加したり、区長や民生委員さんと話し合いをしている。今年度は感染対策の為中止している。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が交流が困難な状況が続いているが、ホームは地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、情報交換等が行われている。例年については、地域の行事に参加する等の交流が行われている。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の行事への参加等、交流の再開に向けた取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	民生委員やいきいきさんと話し合いと理解を深めているが本人の立場からしかの意見の交換にとどまるもので助けあっているとまではいっていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナ感染予防の為運営推進会議は中止。毎月の行事内容を郵送にて報告し、意見交換をしている。	会議については、書面による実施が続いており、書面を通じて関係者にホームの運営状況等の報告が行われている。例年は、福祉、医療の専門職の方の参加も得られており、助言等の機会につなげている。	書面による会議の実施が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、会議の再開に向けた取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	生活保護者の入居者が4名在設、役所ともに密を取り連携をとっている。集団指導の出席本年度はコロナの為中止	ホームに生活保護の方が生活していることもあり、市担当部署との情報交換等を行いながら、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、地域包括支援センターも参加しているケアマネサロンにホームからも参加する交流も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に一度開き報告、身体拘束に関する勉強会も年に2回行っており従業員も周知している、ここ2年は身体拘束はおこなっていない	身体拘束を行わない方針で支援が行われているが、利用者の様々な状況等にも合わせた対応も行われている。身体拘束に関する定期的な検討や職員研修の機会もつくりながら、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束の勉強会の場で従業員には虐待の話も統計を絡めて勉強会(ミーティング)を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者一部の職員は学び活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約者主に家族さんに施設長兼ケアマネージャーが説明納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置、来設時に意見相談を聞いたりこちらの状態を告げたりし対応している	家族との交流が困難な状況が続いているが、ホームで家族との交流会を実施する等、徐々に交流を再開する取り組みが行われている。また、毎月の便りの作成の他にも、LINEを活用した家族との情報交換等も行いながら、要望等の把握につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、各フロア一枚のミーティング意見要望をきいている、スタッフの意見箱もH32年より設けていて発言しにくいスタッフも意見箱に投書できるようにして意見を拾っている	毎月の職員会議の他にも日常的にも職員間で意見交換を行いながら、施設長でもある管理者を通じて、業務改善等につなげている。また、管理者による職員面談も実施しており、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	処遇改善加算等で給料水準はあがっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の案内、資格取得のアドバイスをしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	中村区内でのネットワークに参加協力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	今までの環境、趣味、出来るだけ要望を聞いて不安のない生活をして頂ける様コミュニケーションを取る様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族からの要望、不安の内容をきき出来るだけ安心して頂けるように対処する		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	最初に説明しているが出来る事は個々に対応している買い物や散歩等		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自宅で生活しているような和気あいあいとした雰囲気を作る様に努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族からの要望、不安の内容をきき意見交換をし、本人にとってよりよい状態であるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの物を居室に置いていただいている、友人はコロナ前までは自由に来訪していただいていた	現状、家族との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、電話や手紙を通じて交流する等、馴染みの方との交流の機会にもつながっている。また、家族との外出についても、身内の方の葬儀に出かける等の機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	うまく関わる事ができない人はスタッフが介入している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ配慮している	職員間で利用者や家族からの意向等の把握を行いながら、申し送り等を通じて職員間での共有につなげている。毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を検討し、定期的なアセスメントや日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所以前の情報をかかりつけ医、サマリー等でスタッフ全員が理解の上、対応している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の性格や状態を把握しその人にあつたやり方をミーティングで随時意見交換しすり合わせを毎月やっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングでその都度話し合いを行っている	介護計画については、1年までに見直すこととしており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。また、日常的にも、電子記録も活用しながら利用者の変化等のチェックを行っており、3か月でのモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日日の記録は設立以来行っており記入し5年保管している、情報共有は申し送りにて伝達している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ここのニーズを把握し柔軟な支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	飲食店神社ショッピングボランティアや有料ボランティアを活用しているがコロナの影響で1月以降は外部からの面会を遮断している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科往診医が2週間に1回往診必要とあれば当該利用者さんを往診医クリニックにお連れしている	協力医との医療面での連携を行いながら、利用者の健康状態等にも合わせた支援が行われている。受診については、家族による支援を基本に、職員による対応も行われている。また、協力医療機関の看護師との医療面での連携も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師はおいていないが、提携先の内科医のナースが月に3回程利用者さんの心電図採血を行って健康管理をしてくれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医を通じていくつかの病院を紹介してもらい早期に治療、入院、退院できる環境である		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族からの要望があれば往診医の協力を得て出来るだけ対応している	現状、身体状態の重い利用者も生活を継続しており、職員間で支援内容の検討が行われている。利用者の看取り支援については行われていない方針を家族にも伝えている。現状は、利用者の段階にも合わせながら、医療機関等への入院対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に救命医講習をうけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練を定期的に年2階4月と10月に行っている。地域の避難訓練にも毎年参加している稲葉地地区、今年はコロナの影響で中止	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われており、職員間の連携に取り組んでいる。当ホームが河川の近隣に立地していることで、水害想定訓練も実施している。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	地域の方との交流が困難な状況が続いていることで、災害に関する協力関係も困難な状況になっていることもあるため、今後に向けたホームの取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	出来るだけ配慮している	職員による利用者への対応等については、管理者からも様々な注意喚起等の取り組みが行われており、職員の意識向上につなげている。また、「気くばり、目くばり、心くばり」の言葉に関しても職員による言葉遣い等の振り返りの機会につなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定出来る人にはそのような働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る範囲で希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔に心がけて支援しているマニキュア等楽しんでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る人は実施	食事については、外部業者も活用しながら提供が行われているが、ホームで食事レク等も行いながら、利用者の楽しみにつなげている。また、独自にムース食を作る工夫も行われており、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリーを考えた献立内容になっている10時と15時には水分摂取をして頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	1日3回口腔ケアを実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	出来るだけリハパン等は使用せず排泄時間を考えて自立に向けた支援をしている	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換等も行いながら、一人ひとりに合わせた支援につなげている。トイレでの排泄を継続することができるように、カンファレンス等の時間を通じて、職員間での検討が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の排便日を確認し、その人に応じた予防を心がけている、水分摂取や繊維質の多い野菜を摂取している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	日にちは設定しているが(火曜、金曜)夏場は3回入れる様に努力している	利用者の状況等にも合わせて週2回を基本に入浴が行われており、大きな浴槽にゆったりと入ってもらう支援が行われている。身体状態に合わせた職員2名での支援も行われている。また、季節等にも合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	10時半のラジオ体操やレクでの体操や散歩レクリエーションで楽しく安心して頂けるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬においてはスタッフ全員が注意し、必ず飲んで頂けるように見守り支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日の清掃、台所仕事、洗濯物、買い物時等楽しんで気分転換出来るように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	春の花見、秋の紅葉やドライブ等行ける範囲で毎年行っているが、本年度はコロナの影響で外出は極力禁止している	利用者の外出の機会が困難な状況が続いているが、季節や天候等にも合わせながら、ホームの近隣を散歩する等、現状で可能な範囲で外出支援が行われている。例年は、季節等にも合わせた外出行事の取り組みが行われている。	利用者の外出が限られた機会となっている状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理能力のある人は所持して頂いているが、他者とトラブルの元になるので基本的には事務所金庫にお預かりしていただいている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	出来る人は何時でも実施		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の移り変わりを感じて頂けるような行事を欠かさない様にしている、タペストリー等壁飾りなどでも工夫している	ホーム内は広く、リビングについても広いスペースが確保されていることで、利用者が日中の生活の中で閉塞感を感じないような生活環境がつけられている。ホーム内に古い道具類を飾る等、利用者に懐かしさを感じてもらおう配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	キッチン、ダイニング、リビングとバリアフリーの大広間になっているが、一人で過ごせたり複数で楽しめたり自由に生活できる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	まず入所の際今までの馴染みの物を持参してもらっている、	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせた使い慣れた物や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、居室にベッドが備え付けとなっていることもあり、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	その人の出来る事は、毎日継続してもらっている、掃除、(モップ掛け、皿拭き、洗濯たみ)		